



《会計・税務の知識》 いつやるの？いまでしょ！資金調達

はじめに

企業における経営資源には、一般的に「ヒト」、「モノ」、「カネ」、「情報」の4つがあるといわれています。中でも中小企業や創業間もないベンチャー企業にとっては、「カネ」の問題は特に重要ではないでしょうか。そこで、今回は、「カネ」の集め方、すなわち資金調達についてご紹介致します。

1. 財務戦略の重要性

日々の運転資金に加え、創業時や新規事業進出の際の設備投資、事業拡大による売上増加時、納税資金など、企業が創業から成熟に至るまでには、様々な場面で資金が必要となります。そのため、資金調達に先立って、まずは「いつまでに」、「いくら」、「なんのために」必要なのか、この資金を「どこから」調達するか、といった財務戦略が重要となります。

融資による調達、補助金、助成金による調達、投資育成、ベンチャーキャピタルからの直接金融など「どこから」調達するかは様々ですが、戦略を練る上である程度実行可能性が求められます。そのため、最も現実的な策として、まずは融資による調達を検討することになるかと思えます。

2. 金融機関からの融資

金融機関は、民間系金融機関と政府系金融機関に大別できますが、それぞれ特色がありますので、上記の財務戦略に基づき、企業の現況にあった金融機関の選別を検討する必要があります。以下、各々の特色をご紹介します。

(1) 民間系金融機関

① メガバンク

都市銀行の中でも特に大きい銀行をさします。融資限度額が大きいのが特徴です。また多数の取引先を相手にしているためパッケージ化された融資商品が多く、格付による融資判断が行なわれます。業績の良い企業に対しては融資が早く、比較的で低金利である等の特徴があります。

② 地方銀行・第二地銀

特定の地域に根付いた営業をしており、地域にとって重要な事業である場合には、業績がおもわしくなくても簡単に切り捨てないように支援を行

なうようになっております。メガバンクに比べ小回りが利くという特徴があります。

③ 信用金庫・信用組合

メガバンクや地銀に比べ資金力は小さく、金利も高いですが、地域密着型できめ細かい支援が特徴です。

(2) 政府系金融機関

① 日本政策金融公庫

創業時、業績不振時など民間系金融機関が扱いにくい部分の融資を担っている点が特徴です。また、低金利、無担保など比較的有利な条件の融資商品を取り扱っています。一方、政府系金融機関であるため、書類の不備等は厳しくチェックされるという特徴もあります。

② 商工組合中央金庫

日本政策金融公庫と同様に低金利、無担保など比較的有利な条件の融資商品を取り扱っていますが、上記に比べ融資限度額が大きいのが特徴です。

また、組合員に対する融資を行なうため融資を受けたい場合には商工組合の会員になる必要があります。

3. 地方公共団体からの融資

これは「制度融資」といわれるもので、各都道府県や各市町村など自治体が、中小企業や会社設立を目指す人へのサポートを目的とした融資です。金利、保証料、返済期間など条件面では通常の銀行融資より優遇される場合があります。

地方自治体ごとに制度内容が異なりますので詳細は各地方自治体のHPなどで御確認下さい。

4. おわりに

資金調達は企業経営上、最も重要な課題と言っても過言ではありません。当然、弊所も資金調達支援に力を入れており、そのノウハウをギュッと搾った一冊を出版しております。このメルマガの内容では物足りない方、資金調達を検討している方は是非、下記の書籍をご一読下さい。

「財務戦略のプロが教える資金調達 Q&A」

<http://koyano-vp.com/page0126.html>

(担当：末廣)